

令和4年度 教養教育科目 シラバス

科目名	生活と経済 Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	基礎的な経済学を学ぶことにより、生活に関わる様々な経済の仕組みを理解できるようになることを目指しつつ、経済問題について考察し、日常の選択について自ら考えることができるようになる。これにより学生が自身が社会に貢献することの意義を知り、また自らのライフ・イベントに付随する経済問題を理解しその対処を考え、より良い選択が行えるようになることを目的とする。「生活と経済」を学ぶことにより、社会に貢献する意義について理解し、また自らの選択を見直しつつ将来にわたる経済的な設計を考え、説明できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	<p>経済の問題と聞くと難しいと身構えてしまうことが多い。しかし、日々の生活において金銭を支払うことける支出を出費を行うこと、例えば「おやつ」を食べるどうか、そしてどんな「おやつ」を食べるのかという問題も経済問題の一種である。また、自身が収入の獲得する様々な手法（働いて給与を得る、事業を営む、あるいは利子や家賃収入を得るなど）や、現金で買うかクレジットカードを利用するかについても、経済の問題である。経済社会における価値の創造から自らの貯蓄の手法に至る、収入と支出に関わる身近な問題への対処と選択を学び、「経済」について理解する。</p> <p>【SDGs：①,④,⑧,⑨】</p>		
授業計画	<p>① はじめに一オリエンテーション</p> <p>② 経済の指標の取り方</p> <p>③ 価値と市場について—GDPの基礎概念</p> <p>④ 生産活動と所得—「分け前」の獲得</p> <p>⑤ 誰がお金を使ったか？—消費と企業活動</p> <p>⑥ 市場の均衡と景気</p> <p>⑦ 資産とは何か—ポートフォリオ・セレクション</p> <p>⑧ お金の「価格」とは何か</p> <p>⑨ 消費者の満足とは—効用水準</p> <p>⑩ 自分にとっての価値（主観的価値と客観的価値）</p> <p>⑪ 何を買うのか？—消費の選択</p> <p>⑫ 満場一致が望ましい—バレートの意味での効率性</p> <p>⑬ 企業活動—利潤と費用</p> <p>⑭ クレジットカードの意味—支出と所得と時間の関係</p> <p>⑮ 異時点間の消費選択—住宅ローンに代表される借入れの問題</p> <p>⑯ 定期試験—記述式</p>		
予復習等	<p>【予習】 諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。</p> <p>【復習】 表示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、定期試験70%		
履修条件	各回のテーマに興味を持ち講義に臨むこと。		
教科書	書籍は指定せず、適宜資料を配付する（プリント、簡略化したスライド資料）。		
参考書	講義中に適宜参考資料を紹介するが、購入を要するものではない。		

科目名	生活と福祉 Social Welfare	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年後期）	科目区分	講義
担当者	天池 洋介	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	北欧デザインなど日本にある身近なものに興味・関心を持ち、主体性を持って北欧の文化とその背後にある福祉の考え方を幅広く学び、理解することができるようになる。その上で福祉の現場における具体的なサービスと、それを支える社会政策を学び、福祉国家とはどういうものかを、自分なりにイメージすることができる。そして最終的には北欧の事例を理解することで、日本の現状を検討し、日本における問題の解決方法を、自分なりに考えることができることを目的とします。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関の生活・福祉電話相談員の経験あり】</p> <p>近年、スウェーデンのIKEA、フィンランドのMarimekko、デンマークのFlying Tiger Copenhagenなどの北欧デザインやその製品が注目されています。本講義はこのような北欧デザインや北欧の文化を通じて、北欧の豊かな生活と高い水準の福祉について学びます。</p> <p>また、世界の最先端と言われる福祉のシステムや経済、政治のあり方から、人々の生活と幸せを支援する国の姿＝福祉国家について楽しく学びます。最終的に北欧の姿を鏡にして、日本の現状と課題を考えます。</p> <p>本講義は実物や映像を見ながら、調べ学習や体験も交えて学ぶアクティブ・ラーニング型の講義です。自ら考え、学ぶことを楽しみ、積極的に参加することを期待しています。</p> <p>【SDGs：①,③,④,⑤,⑧,⑨,⑩,⑯,⑰】</p>		
授業計画	<p>日本の中の北欧を探す</p> <p>北欧デザインから幸せの支援を考える</p> <p>映像で見る福祉国家の生活</p> <p>誰もが安心して暮らせる普遍主義</p> <p>福祉の先進地域・北欧5カ国を知る</p> <p>スウェーデン語を学ぶ</p> <p>本当の教育を考える</p> <p>現場重視の福祉制度</p> <p>最低限の生活費を確保する</p> <p>家事や育児を分担する家庭と社会</p> <p>話し合いで心を癒やす精神科治療</p> <p>北欧諸国の優れているところを調べる</p> <p>人を助ける経済のしくみ</p> <p>社会をコントロールする政治の力</p> <p>日本で幸せを支える福祉を考える</p> <p>定期試験</p>		
予復習等	【予習】 授業終了時に、次回の予習となるような宿題を出します。		
評価方法	宿題・授業課題45%、定期試験55%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	現代社会と法律 Modern Society and the Law	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生デ（1年後期）／英文・国文・食栄（2年後期）	科目区分	講義
担当者	近藤 真	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義では、法とは何か、憲法とは何か、を認識する。取り上げられた題材を通して、法律がどんな歴史的社会的意味を持っているのかを認識し、よりよい社会を目指した法の現代的課題を認識する。それらによって主権者としての市民的教養と課題意識を獲得する。		
授業概要	現代社会は当然ながら法律の社会でもある。人々は法の支配のもとにあつて、初めて安全と安心を確保できる。では、法律とは一体何であろう。本講義では、法とは何か、憲法とは何か、の根本にさかのぼりながら、現代社会にとって法律がどんな意味を持っているのかを考え、憲法の社会権を中心に、現代社会における法の到達点と課題を究明する。  【SDGs：①～⑱】		
授業計画	① 入門 ② 法とは何か ③ 憲法と法律 ④ ビデオ「NZの環境法」 ⑤ 環境権とは何か ⑥ 四大公害訴訟の法的意義 ⑦ 岐阜の環境問題と法律 ⑧ ビデオ「岐阜の教育問題」 ⑨ 教育権とは何か ⑩ 国家と教育 ⑪ 能力主義と教育 ⑫ ビデオ「労働問題」 ⑬ 労働権とは何か ⑭ 労働時間短縮と文化的生存権 ⑮ 定期試験 ⑯		
予復習等	【予習】3冊の本を読み、読書感想文を書く。 【復習】3回のビデオ感想文を書く。		
評価方法	テスト70%、レポート30%、出席5%		
履修条件	なし		
教科書	法律文化社『憲法とそれぞれの人権』、有斐閣『ポケット六法』		
参考書	授業の中で示す		

科目名	課題創造演習 Problem Finding and Program Creating	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1・2年後期）	科目区分	演習
担当者	臼井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本演習では、これまでの正しさの論理をめぐり、分野の垣根を超えながら知識を共有し、それを発展的に展開していく能力を養う。具体的には、以下の3つを身につけることを目的とする。 1. 変化する社会に潜む課題の発見 2. 分野を横断した議論の方法 3. 正解の無い問いに対処する方法		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設的设计及び監理の実務経験がある教員が担当する】 これまで、与えられた課題を解決する力を備えた人材が重宝されてきた。そのため、解決策を学ぶことや、そのためのスキルを覚えることが、大切だと思われてきた。しかし、近年、社会情勢はこれまで以上の加速度で変化し、さらに多様化している。そのため、これまで正しいと思われてきた論理にて意思決定をしていては、人々の幸福につながらないケースが発生すると考えられる。本演習では、前半で議論・促進・抽出の方法を学んだのち、受講者によるグループワークやディスカッションを行い、正解の無い問いに対する対処方法および表現方法を学ぶ。 【SDGs：⑩】		
授業計画	① ガイダンス ② 多様な社会課題 ③ 議論・促進・抽出の方法 ④ ディスカッション（課題抽出） ⑤ 文献調査 ⑥ ディスカッション（課題抽出） ⑦ ディスカッション（調査計画） ⑧ 現地調査 ⑨ 現地調査 ⑩ 調査結果発表 ⑪ ディスカッション(表現方法) ⑫ 制作（Adobe、パワーポイント） ⑬ 制作（作業） ⑭ 制作（作業） ⑮ 成果発表		
予復習等	【予習】本演習の第一回目までに、参考書を一読しておくこと。 参考書にはマンガ版を示しましたが、同様のタイトルの新書版でも良い。 【復習】授業の内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	出席状況・授業態度50%、課題50%		
履修条件	集中講義であるため、開講時期に注意すること。現地調査など、学外へ移動することがある。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	『マンガと図解でわかる 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』/山口周 / 出版：光文社		

科目名	生物学 Biology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（2年後期）	科目区分	講義
担当者	三宅 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	生物学（生命科学）は急速に研究が進んでおり、医療分野への応用や自然環境の保全等、私たちの生活に深く関わる分野である。本授業では、生物学の基礎的な知識を理解し、生物学をめぐる諸問題に対し、どのように考え行動していくかを習得することを目的とする。今後、生物学の知見や技術が応用される社会を想像し、新たに生じうる問題に対し、自ら情報収集に努め、個人として、市民として、さまざまな立場や観点から自らの考えをもって議論できるようになることを達成目標とする。		
授業概要	生命の本質は2つある。その一つは、遺伝情報を自己複製することで後世に伝えていくこと、そしてもう一つは、代謝活動により個体の生命活動を維持することである。本授業では、まず生命の基本単位である細胞の構成要素、各器官の働き、遺伝について学び、さらに生命活動を、生殖方法、発生、機能分化などの観点からみることで、どのように個体が維持されているかを学ぶ。最後に、生物と環境の関わりや生命科学の諸問題について、最近の話題を取り上げながら、生命科学と社会の問題を考える。なお、開講順と開講テーマは変更される場合がある。 【SDGs：③、⑤、⑩、⑬、⑮】		
授業計画	① 生命とは ② 生命の誕生と変遷 ③ 組織と細胞、構成要素 ④ 細胞の活動、組織と器官 ⑤ 細胞分裂と遺伝、染色体・DNA・遺伝子 ⑥ 様々な遺伝 ⑦ 発生、機能分化 ⑧ 生殖方法 ⑨ 生物と環境の関わり 生物間の相互作用1 ⑩ 生物と環境の関わり 生物間の相互作用2 ⑪ 科学史の中の生命科学 ⑫ 生命科学の最前線 細胞の初期化 ⑬ 生命科学の最前線 再生医療 ⑭ 生命科学の最前線 生殖医療と遺伝子診断 ⑮ 生命科学をめぐる諸問題 ⑯ 試験－記述式		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、新聞やテレビ・インターネットのニュースなどで最新の情報に触れるように努めること。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況20%、授業に対するコメントペーパー20%、定期試験60%		
履修条件	学修規定による。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし、プリントを配布する		
参考書	なし		

科目名	岐阜学入門 Gifu Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	オムニバス	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	【授業目的】 1)岐阜をフィールドにした学びを通して岐阜地域の現状・歴史・文化を知る。 2)その上で、岐阜の抱える様々な課題を取り上げ、課題に関連する情報をリサーチする。 3)リサーチに並行して、課題解決策を構成する能力を高め、仮説を提案する。 【到達目標】 1)岐阜地域の現状・歴史・文化を理解し、自分の言葉で簡潔に説明することができる。 2)岐阜の現状・歴史・文化からテーマを特定し、課題・解決策について情報収集することができる。 3)情報を整理して問題の構造・解決策の構造を把握し、図表を用いて説明することができる。 4)岐阜市がよくなる取り組み（仮説）を提言することができる。		
授業概要	【担当者の実務経験：授業計画①、⑤、⑦、⑧、⑨、⑫、⑬、⑭、⑮の回は、それぞれのテーマについて、現役または勤務経験のある学外講師が担当】 毎回異なる学内外の専門家が担当するオムニバス形式の講義を受講し、「岐阜の現状」と「岐阜の歴史・文化」について学ぶ。実務経験者の回は、最新の現状や現場ならではの実体験をもとに授業を実施する（開講順は変更される場合がある）。 最後に、受講した講義から、自分が取り組みたいトピック（テーマ）を特定し、よりよい岐阜市になるための提案書「岐阜市の未来社会を創造する」の作成に取り組む。 【SDGs：④、⑤、⑩】		
授業計画	① ガイダンス及びデザイン思考 【担当：副学長及び岐阜大学 教員】 ② 岐阜と食文化（食育1） 【担当：食物栄養学科 教員】 ③ 岐阜と食文化（食育2） 【担当：食物栄養学科 教員】 ④ 岐阜と食文化（食育3） 【担当：食物栄養学科 教員】 ⑤ 岐阜の農作物 【担当：岐阜県農産物流通課】 ⑥ 観光資源1（岐阜の歴史・民俗・宗教） 【担当：国際文化学科 教員】 ⑦ 観光資源2（岐阜のもてなし） 【担当：岐阜市観光コンベンション課】 ⑧ 岐阜市における国際化の現状 【担当：岐阜市国際課】 ⑨ 岐阜の産業と暮らし1（産業全般） 【担当：岐阜市商工課】 ⑩ 岐阜の産業と暮らし2（ファッション産業） 【担当：生活デザイン学科 教員】 ⑪ 岐阜の産業と暮らし3（木育・土育） 【担当：生活デザイン学科 教員】 ⑫ 岐阜市の公共交通について 【担当：岐阜市交通政策課】 ⑬ 岐阜とジェンダー 【担当：男女共同参画活動のNPO法人】 ⑭ 岐阜における環境共生 【担当：岐阜市環境保全課】 ⑮ 「世界農業遺産－清流長良川の鮎」と伝統漁法 【担当：学長、長良川漁協、岐阜県里川振興課】 （講義テーマの詳細はガイダンスまたは各講義で伝える。）		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、新聞・本などで最新の現状を調査しておくこと。 【復習】配布資料を熟読し、疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度、各講義のレポート・提案書等を総合して評価する。（詳細はガイダンスで伝える）		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	参考資料を適宜配布する。		

科目名	生活と化学 Chemistry	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	食栄（1年前期）／英文・国文・生デ（2年前期）	科目区分	講義
担当者	小野 廣紀	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	化学の基礎的な考え方や概念を理解する。具体的には、有効数字やSI単位について理解し、簡単な計算問題を解けるようにする。また、私たちの日常生活はエネルギーを消費することで成り立っている。そのエネルギーに関係するものとして、紫外線や食品を取り上げるが、その性質について理解する。また、食品に含まれる代表的な有機化合物や無機化合物の構造や性質についても理解する。		
授業概要	日常生活の中で、私たちの身のまわりにあるものは、すべて化学とかかわりがある。化学が普段の暮らしにどれだけ役立っているかを身のまわりにあるものを通して、わかりやすく解説してみたい。 たとえ高校で、化学を学んでいなくても理解ができるように配慮し、なるべく身近な事例、たとえば、食品や生体に含まれる成分などを題材に取り上げ、生活と化学とのかかわりについて考えてみたい。  【SDGs：③、④】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 元素と元素記号</li> <li>③ 物質の測定</li> <li>④ 紫外線①</li> <li>⑤ 紫外線②</li> <li>⑥ カロリー（エネルギー）</li> <li>⑦ ダイエット①</li> <li>⑧ ダイエット②</li> <li>⑨ ダイエット③</li> <li>⑩ 身のまわりの酸と塩基</li> <li>⑪ アルコール①</li> <li>⑫ アルコール②</li> <li>⑬ 食品中の有機化合物</li> <li>⑭ 食品中の無機化合物</li> <li>⑮ まとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	【予習】事前にテキストの該当する章をしっかりと読んでくる。 【復習】ノートに整理し、理解する。		
評価方法	定期試験100%		
履修条件	なし。		
教科書	『わかる化学』／著：松井徳光ほか／出版：化学同人		
参考書	なし。		

科目名	日本社会の歩み Japanese History	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文（1年後期）／食栄・生デ（2年後期）	科目区分	講義
担当者	森田 晃一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	歴史を学ぶことは、たんに過去の事実を知識として習得することではない。過去と現在との間には密接な関係が、ときには緊張感さえたよう関係が存在する。近世から現代への歴史をたどることで「日本社会の歩み」について認識を深め、現代社会をより「意識的」に生きる姿勢を養う。歴史知識の多寡を問うのではなく、それを毎日の生活に活かせる歴史学的な方法を身につけることを目的とする。		
授業概要	この授業では、近世から現代にいたる「日本社会の歩み」を、歴史学の考え方・平和社会・国際交流・自然環境・文化芸術の5つのテーマから、全15回分の話題を設定して学習していく。私たちが生きる現代日本に関心を持ち、そこに生起する諸問題を探求する態度を養うことが大切である。その方法の一つとして、問題を過去に遡って考察する（歴史学的方法）。講義の前週にプリントを配布する（予習しておくこと）。適宜、映像資料を使用して理解を深める。上記のように5つのテーマを扱うが、1つのテーマが終わるごとに、復習を兼ねて課題を出す。この課題は成績評価の資料として扱う。  【SDGs：】⑪, ⑬, ⑯		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 歴史学の考え方（1）過去と歴史はどうちがうか</li> <li>② 歴史学の考え方（2）時代区分と現代社会のとらえ方</li> <li>③ 平和社会（1）近代の戦争</li> <li>④ 平和社会（2）戦国の時代相</li> <li>⑤ 平和社会（3）徳川の平和</li> <li>⑥ 国際交流（1）「鎖国」への道</li> <li>⑦ 国際交流（2）「四つの口」長崎貿易と朝鮮通信使</li> <li>⑧ 国際交流（3）「四つの口」琉球王国とアイヌ、開国</li> <li>⑨ 自然環境（1）日本列島の気候、小氷河期の近世、そして飢饉</li> <li>⑩ 自然環境（2）近世の自然環境と循環型社会</li> <li>⑪ 自然環境（3）災害と人びと</li> <li>⑫ 文化芸術（1）大道芸と見世物</li> <li>⑬ 文化芸術（2）落語と講談</li> <li>⑭ 文化芸術（3）茶の湯</li> <li>⑮ 文化芸術（4）浮世絵</li> </ul>		
予復習等	【予習】事前に配布する講義資料を読んでおくこと。 【復習】授業終了時に示す課題について、次回の授業までにレポートを作成すること。		
評価方法	出席状況・授業態度10%、提出物（課題）90%		
履修条件	なし。		
教科書	なし（講義資料を配付する）。		
参考書	なし（必要に応じて、授業内で紹介する）。		

科目名	心理学 Psychology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（2年前期）	科目区分	講義
担当者	吉田 琢哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>身近な対人関係の問題を主な題材として、学生が心理学的な考え方やもの見方を身につけることを目標とする。具体的には、学生が以下の事柄について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>(1) 心理学の成り立ち (2) 人の感覚・知覚、記憶、学習、感情などの基本的なしくみ及び働き (3) 社会、教育および発達心理学の領域における人の心の捉え方</p>		
授業概要	<p>心理学は心の問題を中心的に扱う学問である。ただし、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心についての理解を深めることを目指す。具体的には、社会心理学・教育心理学・発達心理学の分野を中心的に学ぶ。そして心理学における基礎知識やものの考え方を身につけることを目標とする。</p> <p>【SDGs：③、⑩】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション・心理学とは</li> <li>② 心理学の研究方法</li> <li>③ 色彩の心理学的効果</li> <li>④ 買い物の心理</li> <li>⑤ 他者を見る心</li> <li>⑥ 他者と比べる心</li> <li>⑦ 人の発達（1）認知機能の発達</li> <li>⑧ 人の発達（2）社会性の発達</li> <li>⑨ 親密な人間関係</li> <li>⑩ コミュニケーションの技術</li> <li>⑪ ノンバーバル・コミュニケーション</li> <li>⑫ 記憶のメカニズム</li> <li>⑬ 学習のメカニズム</li> <li>⑭ 犯罪の心理（1）犯罪とは何か</li> <li>⑮ 犯罪の心理（2）身近な人への暴力</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】事前に資料を精読してくること。 【復習】講義内容を復習しながら小レポートに取り組むこと。</p>		
評価方法	<p>受講態度20%、小レポート10%×5、最終レポート30%。小レポートは3回の未提出で不可とする。他の学生の学習動機づけを下げたり、迷惑を及ぼす行為は減点となる。</p>		
履修条件	<p>なし。真摯な態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。</p>		
教科書	<p>なし。プリントを配布する。</p>		
参考書	<p>なし。</p>		

科目名	ジェンダー論 Gender Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年後期）	科目区分	講義
担当者	中島 美幸	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が「ジェンダー」について学び、以下の4点を獲得することを目的とする。</p> <p>①無意識の偏見に気付き、ジェンダーセンシティブな視点を持つことができる。 ②多様性を理解し、自己決定する能力を高めることができる。 ③将来のライブデザインを、より明確に描くことができる。 ④生きる力を高め、社会に対し主体的に働きかけることができる。</p>		
授業概要	<p>多様な選択が可能になったといわれる現代であるが、「男は仕事/女は家事」「男は強く/女は優しく」など、社会は男女で異なる役割を期待し、また多くの人も、それを当たり前と思い込んでいる。このように、社会や文化が作り出した性差をジェンダーと言う。</p> <p>この授業では、ジェンダーを作り出し、再生産している社会や文化の構造を明らかにするとともに、どのようにしたらジェンダーの縛りから自由になれるかを考える。</p> <p>そのために、過去の女性の生活や活動を知るとともに、現代の女性をとりまく様々な問題を考察する。そして、差別が解消された社会を展望する。</p> <p>【SDGs：①、②、③、④、⑤、⑧、⑩、⑯、⑰】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 多様性とエンパワメント</li> <li>② 作られる「女らしさ」「男らしさ」</li> <li>③ 「男らしさ」からの解放</li> <li>④ 暴力の根絶</li> <li>⑤ 性別分業の起源と歴史①世界</li> <li>⑥ 性別分業の起源と歴史②日本</li> <li>⑦ 50年後の日本を見据えて</li> <li>⑧ 男女をめぐる国際比較</li> <li>⑨ 男女ともに働きやすい社会に</li> <li>⑩ 日本の現在～法律・制度・慣習</li> <li>⑪ 恋愛・結婚・家族とジェンダー</li> <li>⑫ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ</li> <li>⑬ 母になる、父になる、ということ</li> <li>⑭ 女性解放運動の歴史～フェミニズム</li> <li>⑮ 平等な社会を求めて～世界と日本の今</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】新聞、雑誌、インターネットなどで、男女に関するテーマに関心を向けること。 【復習】授業後に、確認テストに答え、小レポートを作成すること。</p>		
評価方法	<p>毎回の、「確認テスト」(50%)と、「小レポート(授業の感想)」(50%)で評価する。</p>		
履修条件	<p>なし</p>		
教科書	<p>なし。プリントを配布する。</p>		
参考書	<p>なし</p>		

科目名	スポーツ&エクササイズ Sports and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英文・生デ（1年前期）／国文・食栄（1年後期）	科目区分	実技
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業では、生涯にわたって運動に親しもうとする意識が養われることを目的とします。そのために重要なこととして、楽しむこと、どのような運動が自分に合うかを知ることが、挙げられます。これらを達成するため、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみ方は多様であることを認識する</li> <li>・楽しむためには参加者の様々な状況について相互理解と協力が重要であると認識する</li> <li>・どのような運動が自分の好み、体力特性、得手不得手などに合っているかを認識する</li> </ul>		
授業概要	<p>授業では、楽しむことを最も重視して進めていきます。受講者は運動能力や体力の高い人からそれほど得意でない人まで様々ですので、そのことを考慮した難易度設定や雰囲気作りを行います。受講者には、自分自身はもちろん周囲の人達も楽しめるように意識することを求めます。</p> <p>スポーツや運動は、用いられる技術やゲームの特性、必要となる体力特性などによって、カテゴリー分けをすることができます。この授業では、それらの特性を偏らせることなく、様々な種目をカテゴリー毎に実施します。特定の種目の技術や体力を高めるタイプの授業ではなく、体験型の授業とします。様々な種目を体験することにより、自分自身に合うスポーツや運動のタイプを認識できるようになることを目指します。具体的な実施種目は、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布してお知らせします。【SDGs：③】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 学内スポーツ施設体験(1)</li> <li>③ 学内スポーツ施設体験(2)</li> <li>④ チームスポーツ（攻守分離型）(1)</li> <li>⑤ チームスポーツ（攻守分離型）(2)</li> <li>⑥ ニューススポーツ(1)</li> <li>⑦ ニューススポーツ(2)</li> <li>⑧ チームスポーツ（攻守混合型）(1)</li> <li>⑨ チームスポーツ（攻守混合型）(2)</li> <li>⑩ チームスポーツ（攻守混合型）(3)</li> <li>⑪ 個人スポーツ（ネット対戦型）(1)</li> <li>⑫ 個人スポーツ（ネット対戦型）(2)</li> <li>⑬ レクリエーションスポーツ(1)</li> <li>⑭ レクリエーションスポーツ(2)</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】実施種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】メディア等で実施種目を視聴・観戦し、特性等を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況60%、授業態度40%		
履修条件	運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	健康とスポーツ Health Science and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国文・食栄（1年前期）／英文・生デ（1年後期）	科目区分	演習・講義
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>運動、栄養、休養は「健康の三本柱」と言われます。この授業では、健康と運動の関連性を理解するとともに、生涯にわたり楽しんで運動を継続していく意識が養われることを目的とします。そのために、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動が身体の状態に与える影響を理解する</li> <li>・運動には多様な楽しみ方があることを認識する</li> <li>・自分に合う運動のタイプを認識する。</li> </ul>		
授業概要	<p>この授業は、スポーツの実践と健康科学の講義を組み合わせられて実施されます。スポーツの実践では、楽しむことを重視します。運動能力や体力レベルが様々な人達が集まって行われますので、受講者には、自分自身はもちろんのこと周囲の人達も楽しめるよう意識することを求めます。スポーツ実践においては更に、消費エネルギーの計算や心拍数の測定など、講義と関連づけた演習も行います。</p> <p>講義では、運動をする・しないことによって身体にどのような変化が起こり、健康状態にどのように影響するのか、ということについての基本事項を学びます。</p> <p>第2～6回はクラス単位で隔週実施、初回および第7～10回は学科単位で毎週実施します。実施順や具体的なスポーツ種目については、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布して説明します。【SDGs：③】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 学内スポーツ施設体験</li> <li>③ チームスポーツ（攻守分離型）</li> <li>④ ニューススポーツ</li> <li>⑤ チームスポーツ（攻守混合型）</li> <li>⑥ 個人スポーツ（ネット対戦型）</li> <li>⑦ 講義「健康とは？運動しないとどうなる？」</li> <li>⑧ 講義「肥満と痩せとダイエット」</li> <li>⑨ 講義「身体活動量の目安、『健康』に関わる体力要素」</li> <li>⑩ 体力づくり実践</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】実施するスポーツ種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況・態度60%、レポート40%		
履修条件	スポーツ実践の際には、運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	情報処理（基礎） [英文] Basic Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ビジネス用アプリケーションソフトの基本的な操作方法を学び、文書作成や表計算、プレゼンテーション技法について演習を通じて習得する。また、ネット社会における情報セキュリティなどの脅威とその対策、情報モラルを理解することで、概念的な常識についても学習する。文書作成、表計算、グラフ作成、スライド作成、情報モラルを身につけることを目標とする。		
授業概要	講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に4学科合同で行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams, Word, Powerpointの基本操作について学ぶ。その後、タッチタイピング演習、ワープロソフト（Word）・表計算ソフト（Excel）・パワーポイント(PowerPoint)の操作を学ぶ。授業では、これらのソフトの操作方法を確認するだけでなく、課題・演習を通じて、実践的な知識・技術を身につける。  【SDGs：④,⑨】		
授業計画	① Wordの基本操作、タイピング、Teams・Zoom ② Powerpointの基本操作、Wi-Fi、情報セキュリティ、情報モラル ③ ガイダンス ④ ファイルとフォルダの操作 ⑤ Word(1) 基礎 ⑥ Word(2) 文書の作成 ⑦ Word(3) 応用 ⑧ Excel(1) 基礎 ⑨ Excel(2) 表 ⑩ Excel(3) グラフ ⑪ Excel(4) 統計関数 ⑫ Excel(5) 論理関数 ⑬ PowerPoint(1) 基礎 ⑭ PowerPoint(2) 演習 ⑮ PowerPoint(3) 発表練習 ⑯		
予復習等	【予習】前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】授業でやった内容を再度一通り演習を行うこと。		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル』／著：noa出版／出版：noa出版		
参考書	なし。		

科目名	情報処理（基礎） [国文] Basic Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	演習・講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ビジネス用アプリケーションソフトの基本的な操作方法を学び、文書作成や表計算、プレゼンテーション技法について演習を通じて習得する。また、ネット社会における情報セキュリティなどの脅威とその対策、情報モラルを理解することで、概念的な常識についても学習する。文書作成、表計算、グラフ作成、スライド作成、情報モラルを身につけることを目標とする。		
授業概要	講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に4学科合同で行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams, Word, Powerpointの基本操作について学ぶ。その後、タッチタイピング演習、ワープロソフト（Word）・表計算ソフト（Excel）・パワーポイント(PowerPoint)の操作を学ぶ。授業では、これらのソフトの操作方法を確認するだけでなく、課題・演習を通じて、実践的な知識・技術を身につける。  【SDGs：④,⑨】		
授業計画	① Wordの基本操作、タイピング、Teams・Zoom ② Powerpointの基本操作、Wi-Fi、情報セキュリティ、情報モラル ③ ガイダンス ④ ファイルとフォルダの操作 ⑤ Word(1) 基礎 ⑥ Word(2) 文書の作成 ⑦ Word(3) 応用 ⑧ Excel(1) 基礎 ⑨ Excel(2) 表 ⑩ Excel(3) グラフ ⑪ Excel(4) 統計関数 ⑫ Excel(5) 論理関数 ⑬ PowerPoint(1) 基礎 ⑭ PowerPoint(2) 演習 ⑮ PowerPoint(3) 発表練習 ⑯		
予復習等	【予習】前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】授業でやった内容を再度一通り演習を行うこと。		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル』／著：noa出版／出版：noa出版		
参考書	なし。		

科目名	情報処理（基礎） [食栄] Basic Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	斎藤 末広	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生がコンピュータの基本的な操作を理解・習得すると共に、オフィスソフトウェア（ワード、エクセル、パワーポイント）の機能の理解および操作の習得を目的とする。以下の2点を到達目標とする。</p> <p>①学生がコンピュータを単独で操作する。 ②学生自身がインターネットを利用した情報収集によって、コンピュータに関連する疑問点等を独自に解決する。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：企業の表計算ソフトを利用した業務改善した経験あり】</p> <p>本講義では、PS操作に慣れ、ワープロソフト（ワード）、表計算ソフト（エクセル）、プレゼンテーションソフト（パワーポイント）について、基本的な操作および技能を習得する。基本的な操作については、複数回の講義によって学習する。基本的な技能については、演習課題を実施することで習得する。さらに、表計算を利用した統計処理も学ぶ。</p> <p>【SDGs：④, ⑧, ⑨】</p>		
授業計画	<p>① パワーポイントの基本 ② パワーポイントの応用その1 ③ パワーポイントの応用その2 □ ④ エクセルの基本□ ⑤ エクセルの応用□ ⑥ エクセルを利用した統計処理 ⑦ ワードの基本 ⑧ ワードの応用その1 ⑨ ワードの応用その2 ⑩ 図表の基本 ⑪ 図表の応用 ⑫ 演習問題その1 ⑬ 演習問題その2 ⑭ 演習問題その3 ⑮ 演習問題その4 ⑯ 定期試験□</p>		
予復習等	<p>【予習】教科書の内容を読んでおくこと。 【復習】講義内容を振り返り、学習した操作が実施可能か確認すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度30%、課題提出50%、定期試験20%		
履修条件	学修規定による。□		
教科書	『30時間アカデミック情報リテラシー Office2016』（実教出版）		
参考書	なし。□		

科目名	情報処理（基礎） [生デ] Basic Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	白井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>今後の学校生活、社会生活において必要となる、基本的なコンピュータ操作に関する知識・技術を習得することを目的とし、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1)Word：ビジネス文章を作成できる知識・技術を習得する。 (2)Excel：表計算の基礎的な知識・技術を習得する。 (3)PowerPoint：プレゼンテーション資料の基本的な作成方法を理解する。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：住宅や公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】</p> <p>windowsの操作方法から、ワープロソフト(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。それらのアプリケーションに触れながら学び、演習問題に取り組むことで、他の授業におけるレポート作成や、プレゼンテーション資料作成などに必要となるコンピュータ操作の基礎的な知識・技術を習得する。</p> <p>【SDGs：⑨】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス、Windowsの基本操作 ② MS Word 基本 ③ MS Word 文章作成 ④ MS Word 表の作成 ⑤ 演習問題 ⑥ MS Excel 基本 ⑦ MS Excel 関数（1） ⑧ MS Excel 関数（2） ⑨ MS Excel グラフとデータベース（1） ⑩ MS Excel グラフとデータベース（2） ⑪ 演習問題 ⑫ MS PowerPoint 基本 ⑬ MS PowerPoint スライドの作成 ⑭ MS PowerPoint プレゼンテーション ⑮ 演習問題 ⑯ 試験</p>		
予復習等	<p>【予習】前の授業で提示された課題に取り組む。 【復習】授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20%、提出作品・その他提出物20%、期末試験60%		
履修条件	なし		
教科書	今すぐ使えるかんたん Word & Excel & PowerPoint(技術評論社)、配布資料		
参考書	授業内で適時紹介		

科目名	データサイエンス概論 Introduction to Data Science	単位数	2
		必選区分	英文・食栄・生デ選択/国文必修
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	人工知能(AI)やデジタルトランスフォーメーション(DX)、データサイエンスは、我々の生活の中に入りつつあり、今後、必要不可欠なツールになる。今後の社会を生きていくためには、AIやDX、データサイエンスを正しく理解し、使えるようにする必要がある。そこで、本講義では、AIやDX、データサイエンスの概略とデータを扱う上で必要な知識を学ぶ。 本講義の到達目標は、現代社会におけるデータサイエンスの役割が説明できること、データ分析に関する基礎的な分析方法を身に着けること、そして、AIがどのような技術であるかを説明できること、である。		
授業概要	最初に、AIやDX、データサイエンスの出現によって起きた社会の変化やその重要性・必然性、国内外の科学技術政策について学ぶ。その後、AIやデータサイエンスのシステム、データ活用事例について学習する。次に、データやAIを取り扱ううえでの留意事項（データの収集方法やバイアスなど）・セキュリティについて学ぶ。ここでは、今後起こり得る社会的な問題についても学習する。続いて、実際のデータを用いて、データの読み方や分析手法について学ぶ。実際にデータを分析することで、学んだ知識の定着を行う。これによって、データリテラシーを身に着ける。最後に、AIやDX、データサイエンスの発展に伴う私たちの社会の変化と自分自身の将来について考えていく。  【SDGs：④、⑨】		
授業計画	① ガイダンス、社会で起きている変化口 ② データサイエンスの重要性・必然性 ③ データが変える社会 ④ データ活用のプロセス ⑤ データ・AIが何に使えるか ⑥ データ活用事例に学ぶ（海外、国内、岐阜） ⑦ AIとは何か？ ⑧ AIの技術 ⑨ データ・AIにおける留意事項とセキュリティ ⑩ データの読み方 ⑪ データの説明 ⑫ データを扱う(1) ⑬ データを扱う(2) ⑭ データサイエンスとこれからの働き方 ⑮ データサイエンスと私たちの未来 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。 【復習】学んだ内容について再度プリントをよく読む。		
評価方法	授業内課題45%、定期試験55%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	情報処理（応用） [生デ] Practical Computer Literacy	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、情報を扱い、資料を作成する上でのソフトウェアの操作方法や留意点を学ぶ。MS Wordでは論文などを想定した書式編集、Excelでは応用可能な統計解析やマクロの基礎を身につける。PowerPointでは発表する内容に応じたスライドデザインを自身で制作する方法や、効果的なプレゼンテーションの方法を実践的に身につける。後半はAdobe Illustrator、Photoshopの操作を学ぶ。課題制作などの取り組みによって、各専修で応用可能なグラフィックデザインの基礎技術を習得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】 MS Wordはサンプルデータを編集することによって、アウトライン作成やページ番号の挿入などを学習する。Excelではサンプルデータを用いてピボットテーブルの作成や単回帰分析などを学ぶ。PowerPointの学習では、テーマに応じてスライドマスターを自身で編集・デザインし、実際に発表を行う。Adobe Illustratorでは演習を通してベクターデータの描画・編集などの基本操作を身につけ、Photoshopではラスタ画像の描画・編集方法を学ぶ。 【SDGs：⑧⑨】		
授業計画	① MS Word 文書作成の応用技術 ② MS Excel（1）データの集計と分析 ③ MS Excel（2）データの集計と分析 ④ MS Excel（3）マクロ ⑤ MS PowerPoint（1）スライド作成課題 ⑥ MS PowerPoint（2）スライド作成課題 ⑦ MS PowerPoint（3）発表 ⑧ Adobe Illustrator（1）基本操作 ⑨ Adobe Illustrator（2）基本操作 ⑩ Adobe Illustrator（3）基本操作 ⑪ Adobe Illustrator（4）基本操作 ⑫ Adobe Photoshop（1）基本操作 ⑬ Adobe Photoshop（2）基本操作 ⑭ Adobe Photoshop（3）基本操作 ⑮ Adobe Photoshop（4）基本操作 ⑯ Illustrator、Photoshopを用いた課題制作		
予復習等	【予習】参考書の精読や、授業内で扱う技術に関する調査など 【復習】配布資料の読み直し、配布データを使った復習など		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題提出80%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	実教出版 飯田慈子、米沢雄介、岡本久仁子著「30時間アカデミック 情報活用Excel2016/2013」]		

科目名	英語Ⅰ [国文] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際化学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	武藤 美代子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業の目的は、映画とシナリオによる「生の英語」を通して、実用的な語彙や表現および英文法を習得し、活用することである。</p> <p>到達目標1. リーディング：シナリオを理解できる（基本的な文法、語彙、表現の習得）。</p> <p>到達目標2. リスニング：シナリオを読解後、映像を字幕なしで視聴し理解できる。</p> <p>到達目標3. スピーキング：習得した語彙や表現を用い、場面の説明や自分の意見が言える。</p>		
授業概要	<p>毎授業時、次のアクティビティを行う。</p> <p>(1) &lt;Previewing Activities&gt;によって、単語や表現の意味と使用法を理解する。</p> <p>(2) DVDを観る。</p> <p>(3) &lt;Viewing Activities&gt;によって、内容を確認する。</p> <p>(4) &lt;Post-viewing Activities&gt;の要約完成や読解等さまざまな演習問題に取り組む。</p> <p>(5) 映画のシナリオの音読および意味を確認する。</p> <p>時々、会話の一部をペアあるいはグループで暗唱・発表する時間をもち、スピーキング力の向上をはかる。</p> <p>【SDGs：④】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス</p> <p>② Unit 1 Job Interview</p> <p>③ Unit 2 First Day on the Job</p> <p>④ Unit 3 Hurricane on the Weekend</p> <p>⑤ Unit 4 Andy's Makeover</p> <p>⑥ Unit 5 Andy Meets Christian</p> <p>⑦ Review (Unit1-5)</p> <p>⑧ Unit 6 Miranda's Request</p> <p>⑨ Unit 7 Nate's Birthday</p> <p>⑩ Unit 8 Andy's Decision</p> <p>⑪ Unit 9 Breakup with Nate</p> <p>⑫ Unit 10 The Dream Job</p> <p>⑬ Unit 11 Announcement at the Party</p> <p>⑭ Unit 12 Andy's Final Choice</p> <p>⑮ Review (Unit 6-12)</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、問題の解答をノートに記入しておくこと。</p> <p>【復習】 授業後に、重要語句や慣用句を覚え、既習の場面の音声を数回聞くこと。</p>		
評価方法	出席・授業参加度20%、対話発表10%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語 著：Aline Brosh McKenna / 出版：松柏社		
参考書	英語辞書必携		

科目名	英語Ⅰ [食栄 (Aクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	小島 ますみ	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>英語のコミュニケーション能力の伸長を目的とする。到達目標は以下である。1) 英語で自己紹介することができる、2) 基本的な英語であれば、ナチュラルスピードの会話を理解することができる、3) 道を聞く、買い物をする、ホテルや空港のチェックイン・チェックアウトを行うなど、海外旅行に必要な基本的な英語を聞き取ったり、話したりすることができる。</p>		
授業概要	<p>CALL教室でビデオ・音声教材を使用し、内容理解、ディクテーション、音読、ロールプレイ、シャドーイングなどのさまざまな活動をおしてリスニング力やスピーキング力を高め、実践的なコミュニケーション能力を養う。使用するビデオ教材は、海外旅行や海外留学・ホームステイを扱った内容なので、海外に短期・長期滞在する上で必須の実用的な英語を学ぶことができる。英語で自己紹介ができるようにする。</p> <p>【SDGs：④,⑤,⑨】</p>		
授業計画	<p>① ① ガイダンス・スピーチ (Self-introduction)</p> <p>② Unit 1: Getting information</p> <p>③ Unit 2: Checking in at a hotel</p> <p>④ Unit 3: Asking for directions</p> <p>⑤ Unit 4: Renting a car</p> <p>⑥ Unit 5: Ordering a meal</p> <p>⑦ Unit 6: Shopping for clothes</p> <p>⑧ 中間試験</p> <p>⑨ Unit 7: Asking for a favor</p> <p>⑩ Unit 8: Meeting a friend</p> <p>⑪ Unit 9: Checking out of a hotel</p> <p>⑫ Unit 10: Expressing preference</p> <p>⑬ Unit 11: Home stay</p> <p>⑭ Unit 12: Offering to help</p> <p>⑮ Review</p> <p>⑯ 期末試験</p>		
予復習等	<p>授業内で配布された音声教材を使用し、ディクテーションやシャドーイング、音読練習。期末試験なに加えて、中間試験を行う。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度 40%、中間試験30%、期末試験30%		
履修条件	学修規程による。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『Viva! San Francisco』 Macmillan Languagehouse		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ [食栄 (Bクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。		
授業概要	クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたりスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。  【SGGs : ④】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome ③ Unit 2 Where Do You Live? ④ Unit 3 Is This the Elevator? ⑤ Unit 4 Is This the Princess? ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty! ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe? ⑬ Unit 12 By All Means, Rome ⑭ 表現 (例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『ROMAN HOLIDAY-DCDで学ぶローマの休日』 / 著: 渡辺幸俊他 / 出版: 南雲堂		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅰ [生デ (Aクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	松家 鮎美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語のリスニング・スピーキングを中心としたスキルを磨き、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、海外の文化について理解を深めると共に、世界中の、英語を母語としない人々のコミュニケーションについて触れ、英語発信の重要性について学ぶ。身近な話題や興味のある分野について、英語で発信することを目的とする。		
授業概要	【担当者の実務経験 : ①航空会社における、国際線の乗務。②米国テレビ局での勤務。】  教科書を用いながら、Unit毎のテーマを理解し、英語の基礎的な力を身に付ける。リスニングについては、英語の強弱やリズムについて理解をする。また、ディクテーションやシャドーイングに挑戦することで、内容理解の正確性を高めることを目指す。スピーキングについては、パターンプラクティスから英語表現力を身に付け、ペア・グループワークを通し、学んだ表現を使えるよう実践する。  【SDGs : ④, ⑯, ⑰】		
授業計画	① ガイダンス, Unit 1 Graduation just Around the Corner ② Unit 2 Smiling Faces ③ Unit 3 Farewell to Friends ④ Unit 4 Japanese as a Communication Tool ⑤ Unit 5 Pursuing a Dream in Southeast Asia ⑥ Unit 6 Sports Journalism in the US ⑦ Unit 7 Feeling Homesick ⑧ Unit 8 More Chinese Students Studying Abroad ⑨ Unit 9 Tapping New Resources ⑩ Unit 10 Becoming a Filmmaker ⑪ Unit 11 A Helicopter Pilot ⑫ Unit 12 Bicycling Anyone ⑬ Unit 13 Helping Immigrants Learn German ⑭ Unit 14 A Young and Ambitious Reporter ⑮ Unit 15 Off to New York ⑯ 定期試験		
予復習等	[予習]各Unitを読み、分からない単語を調べる。授業の事前課題を行う。 [復習]教科書付属のCDを聞きながら、英文を音読する。		
評価方法	履修態度20%、パフォーマンス20%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『Let's Talk with Friends Around the World! 世界の友と英語で話そう』著: 行時潔 他 / 出版: 松柏社		
参考書	授業中に、適時指示をする。		

科目名	英語Ⅰ [生デ(Bクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科(1年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、英語コミュニケーション能力や読解能力を養成するための基礎的な段階として、基本的な英文法や英語表現を学び、リスニング力の強化を目指す。到達目標としては、日常の英会話や様々なビジネスシーンで頻出する基本的な表現の読み、聞き、話し、書くことができることである。</p>		
授業概要	<p>本授業では英語コミュニケーション能力だけでなく、ビジネスシーンでのコミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは、『My First TOEIC Test』を使用する。このテキストでの学習を通じて、TOEICに慣れて、スコアアップをはかることはもちろん、英文法、リーディング、ライティングおよびリスニング力も同時に養成することを目指す。</p> <p>【SDGs : ⑨, ⑰】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ Unit 6 ⑧ Unit 7 ⑨ Unit 8 ⑩ Unit 9 ⑪ Unit 10 ⑫ Unit 11 ⑬ Unit 12 ⑭ Unit 13 ⑮ Unit 14 ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】指定されたテキストの授業範囲を読み、問題を解く。 【復習】試験対策として、授業内容の復習に取り組む。</p>		
評価方法	平常点(出席状況及び課題の取り組み度)60%。定期試験40%。		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『My First TOEIC Test』/著:光富省吾ほか/出版:朝日出版社		
参考書	授業内に指示する。		

科目名	英語Ⅱ [国文(Aクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科(1年後期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、英語コミュニケーション能力や読解能力を養成するための基礎的な段階として、基本的な英文法や英語表現を学び、リスニング力の強化を目指す。到達目標としては、日常の英会話や様々なビジネスシーンで頻出する基本的な表現の読み、聞き、話し、書くことができることである。</p>		
授業概要	<p>本授業では英語コミュニケーション能力だけでなく、ビジネスシーンでのコミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは、『My First TOEIC Test』を使用する。このテキストでの学習を通じて、TOEICに慣れて、スコアアップをはかることはもちろん、英文法、リーディング、ライティングおよびリスニング力も同時に養成することを目指す。</p> <p>【SDGs : ⑨, ⑰】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ Unit 6 ⑧ Unit 7 ⑨ Unit 8 ⑩ Unit 9 ⑪ Unit 10 ⑫ Unit 11 ⑬ Unit 12 ⑭ Unit 13 ⑮ Unit 14 ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】指定されたテキストの授業範囲を読み、問題を解く。 【復習】試験対策として、授業内容の復習に取り組む。</p>		
評価方法	平常点(出席状況及び課題の取り組み度)60%。定期試験40%。		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『My First TOEIC Test』/著:光富省吾ほか/出版:朝日出版社		
参考書	授業内に指示する。		

科目名	英語Ⅱ [国文 (Bクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義の目的は、英語コミュニケーション能力や読解能力を養成するための基礎的な段階として、基本的な英文法や英語表現を学び、リスニング力の強化を目指す。到達目標としては、日常の英会話や様々なビジネスシーンで頻出する基本的な表現の読み、聞き、話し、書くことができることである。		
授業概要	本授業では英語コミュニケーション能力だけでなく、ビジネスシーンでのコミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは、『My First TOEIC Test』を使用する。このテキストでの学習を通じて、TOEICに慣れて、スコアアップをはかることはもちろん、英文法、リーディング、ライティングおよびリスニング力も同時に養成することを目指す。  【SDGs : ⑨, ⑰】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ Unit 6 ⑧ Unit 7 ⑨ Unit 8 ⑩ Unit 9 ⑪ Unit 10 ⑫ Unit 11 ⑬ Unit 12 ⑭ Unit 13 ⑮ Unit 14 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲を読み、問題を解く。 【復習】試験対策として、授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点 (出席状況及び課題の取り組み度) 60%。定期試験 40%。		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『My First TOEIC Test』／著：光富省吾ほか／出版：朝日出版社		
参考書	授業内に指示する。		

科目名	英語Ⅱ [食栄 (Aクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、所属する学科の専門教育に関連した英文に取り組むことを通して、より高度な英文読解力および英文聴解力を養成することである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ポキャブラリーの拡充をはかり、総合的な英語力を身につけることで、大学での学びに必要な英語力を取得することを目指す。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、リスニング問題に取り組むことで聴解力を磨き、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。その後、テーマに即した英文エッセイの朗読を聞く。リーディング演習では、英語の構造および重要な箇所、難解な箇所を理解し、文脈に合った正しい解釈ができるような読解力を身につける。内容把握に関する練習問題に取り組む。重要な語句について学習し、専門的な語彙をも強化する。  【SDGs : ①, ②, ③】		
授業計画	① Introduction : 授業説明、Unit 1 : Energy-Providing Nutrients ② Unit 2 : Nutrition Science: A Brief History ③ Unit 3 : Staple Foods ④ Unit 4 : The Cultural Heritage of Food ⑤ Unit 5 : The Art of the Bento Box ⑥ Unit 6 : Kyushoku: The Japanese School Lunch ⑦ Unit 7 : Kodomo Shokudo ⑧ Unit 8 : Can Food be super ? ⑨ Unit 9 : Halal Food ⑩ Unit 10 : How We Taste ⑪ Unit 11 : Airline Food ⑫ Unit 12 : Sugar: What You Need to Know ⑬ Unit 13 : Sugar Tax ⑭ Unit 14 : Antioxidants ⑮ Unit 15 : Genetically Modified Food ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、練習問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、小テスト、課題など) 50%、定期試験 50%		
履修条件	学修規程による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	『A Matter of Taste <Intro>』／著：津田晶子／出版：南雲堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ [食栄 (Bクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	武藤 美代子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業の目的は、英語Iで培った英語力を活用し、映画とシナリオによる「生の英語」を通して、実用的な語彙や表現および英文法を習得し、英語の3技能の上達を図ることである。</p> <p>到達目標1.リーディング：シナリオを理解できる（基本的な文法、語彙、表現の習得）。</p> <p>到達目標2.リスニング：シナリオを聴解後、映像を字幕なしで視聴し理解できる。</p> <p>到達目標3.スピーキング：習得した語彙や表現を用い、場面の説明や自分の意見が言える。</p>		
授業概要	<p>毎授業時、次のアクティビティを行う。</p> <p>(1) &lt;Previewing Activities&gt;によって、単語や表現の意味と使用法を理解する。</p> <p>(2) DVDを観る。</p> <p>(3) &lt;Viewing Activities&gt;によって、内容を確認する。</p> <p>(4) &lt;Post-viewing Activities&gt;の要約完成や読解等さまざまな演習問題に取り組む。</p> <p>(5) 映画のシナリオの音読および意味を確認する。</p> <p>時々、会話の一部をペアあるいはグループで暗唱・発表する時間をもち、スピーキング力の向上をはかる。</p> <p>【SDGs：④】</p>		
授業計画	<p>① ガイドンス</p> <p>② Unit 1 The Woman in the Picture</p> <p>③ Unit 2 Back to Titanic</p> <p>④ Unit 3 Leaving Port</p> <p>⑤ Unit 4 Don' t Do It</p> <p>⑥ Unit 5 Do You Love Him?</p> <p>⑦ Unit 6 I Can' t See You</p> <p>⑧ Unit 7 I' m Flying!</p> <p>⑨ Unit 8 Iceberg Right Ahead!</p> <p>⑩ Unit 9 An Honest Thief</p> <p>⑪ Unit 10 Goodbye, Mother</p> <p>⑫ Unit 11 Get in the Boat</p> <p>⑬ Unit 12 Two Tragic Bullets</p> <p>⑭ Unit 13 Promise Me</p> <p>⑮ Unit 14 Rose' s Secret</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、問題の解答をノートに記入しておくこと。</p> <p>【復習】 授業後に、重要語句や慣用句を覚え、既習の場面の音声を数回聞くこと。</p>		
評価方法	出席・授業参加度20%、対話発表10%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	映画『タイタニック』で学ぶ総合英語 著:角山照彦 Simon Capper / 出版:成美堂		
参考書	英語辞書必携		

科目名	英語Ⅱ [生デ (Aクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、日常で出会う様々な場面を想定した実用的な英語コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。①会話で相手の意図や要求が理解できること、②場面に応じた英語表現が使えること、③重要な文法事項を理解し、会話に反映できる応用力を身につけることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>本授業では、短期留学を想定した教材を使用し、留学先のニューヨークで出会う様々な日常場面が必要となる、実用的な英語コミュニケーション能力を身につける。各場面の映像を視聴し、会話を聞き取り相手の意図や要求を把握する。会話に使われている重要な英語表現とその類似表現を学び、会話練習を行う。文法事項の解説を理解し、練習問題に取り組むことで応用力を養う。さらに、各ユニットの内容に関連した短いエッセイを読み、背景の文化や地域の事情を理解する。こうした活動から、総合的に英語力の向上を目指す。</p> <p>【SDGs：④】</p>		
授業計画	<p>① ガイドンス</p> <p>② Unit 1, Unit 2</p> <p>③ Unit 3</p> <p>④ Unit 4</p> <p>⑤ Unit 5</p> <p>⑥ Unit 6</p> <p>⑦ Unit 7</p> <p>⑧ Review Unit 8</p> <p>⑨ Unit 9</p> <p>⑩ Unit 10</p> <p>⑪ Unit 11</p> <p>⑫ Unit 12</p> <p>⑬ Unit 13</p> <p>⑭ Unit 14</p> <p>⑮ Unit 15</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 指定されたテキストの問題を解いておく。</p> <p>【復習】 付属のオンライン配信を使って音声練習する。単語リストを作る。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、復習テスト40%、定期試験40%		
履修条件	なし。		
教科書	『Hello New York!』/著:土屋武久/出版:金星堂		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅱ [生デ (Bクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は、総合的な英語能力に加えて異文化に対する関心と理解を深めることを目標とする。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生はリスニングやスピーキングを含めた総合的な英語能力を向上させる</p> <p>2：受講生は世界遺産、海外のニュースに触れることで異文化に対する関心と理解を深める</p>		
授業概要	<p>本授業は、世界遺産に関する英語・映像教材を活用し、リスニングやスピーキング・コミュニケーションを含めた総合的な英語能力の向上を目的とする。また、Voice of Americaという英語ラジオも活用し、アメリカないし国際ニュースにふれることで、異文化に対する関心と理解を深めることも狙いとする。中間的な課題として、行ってみたい都市や世界遺産に関する短いエッセイ、また、アメリカないし国際ニュースに関する短いエッセイを書いてもらい、受講生同士でそれについて読み合わせ、相互に論評する機会も設けることで、コミュニケーション能力の向上も目指す。</p> <p>【SDGs：④, ⑩, ⑯, ⑰】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Guidance (self-introduction, etc)</li> <li>2 Unit 1 Statue of Liberty, USA</li> <li>3 Unit 2 Forbidden City, China</li> <li>4 Unit 3 Bath, England</li> <li>5 Unit 4 Canadian Rockies, Canada</li> <li>6 Unit 5 The Pyramids, Egypt</li> <li>7 Unit 6 Ayutthaya, Thailand</li> <li>8 Unit 7 Edinburgh Castle, Scotland</li> <li>9 Unit 8 Machu Picchu, Peru</li> <li>10 Unit 9 Taj Mahal, India</li> <li>11 Unit 10 Te Wahipounamu, New Zealand</li> <li>12 Unit 11 Shirakawa-go, Japan</li> <li>13 Unit 12 Cappadocia, Turkey</li> <li>14 Unit 13 Blue Mountains, Australia</li> <li>15 Unit 14 Persepolis, Iran</li> <li>16 term exam</li> </ol>		
予復習等	<p>予習：指定されたユニットのテキストを読み、単語を辞書で調べておく</p> <p>復習：DVDを再視聴し、音声聞きながらシャドーイングをする</p>		
評価方法	出席状況・授業態度 (30%)、課題 (20%)、定期試験 (50%)		
履修条件	なし		
教科書	『World Heritage on DVD』／著：染矢 正一、Fred Ferrasci／出版：南雲堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅲ [国文] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科 (2年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションにおける様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的な英語力を身につける。</p>		
授業概要	<p>授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。</p> <p>【SDGs：⑩, ⑯, ⑰】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① インTRODクシヨン</li> <li>② Unit 1 Travel</li> <li>③ Unit 2 Jobs and People</li> <li>④ Unit 3 Getting on the plane</li> <li>⑤ Unit 4 At the Immigration and Customs</li> <li>⑥ Unit 5 At the Airport</li> <li>⑦ Unit 6 Hotel</li> <li>⑧ Unit 7 Restaurant</li> <li>⑨ Unit 8 Sightseeing</li> <li>⑩ Unit 9 Shopping</li> <li>⑪ Unit 10 Transportation</li> <li>⑫ Unit 11 Problems and Compliments</li> <li>⑬ Traveling in Japan (1)</li> <li>⑭ Traveling in Japan (2)</li> <li>⑮ Traveling in Japan (3)</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。</p> <p>【復習】 授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること。</p>		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、対話発表、小テストなど) 50%、定期試験 50%。		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『ENGLISH for Tourism <Basic>』／著：観光英検センター／出版：三修社		
参考書	授業内に適宜指示する。		

科目名	英語Ⅲ [食栄・生デ] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	食栄・生デ (2年前期)	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	The aim of this class is for students to learn English that is useful and necessary for a variety of situations when travelling and studying overseas. By increasing their knowledge of vocabulary, students increase their ability to communicate in a variety of situations. Students will also learn and practice sentence-length expressions which will help them speak more fluently and naturally.		
授業概要	Emphasis will be put on increasing students' English vocabulary through in-class activities and conversation. There will be a vocabulary quiz at the end of each unit. Other classroom activities include listening and reading practice, and dialogue practice in pairs. Because this is mainly a conversation course, students who take this course need to be interested in using English for spoken communication.  【SDGs : ④,⑰】		
授業計画	① Course introduction / Unit 1: Airport check-in ② Unit 1: Airline baggage rules / Vocabulary review ③ Unit 1 Vocabulary quiz / Unit 2: Jet lag ④ Unit 2: Time zones / Vocabulary review ⑤ Unit 2 Vocabulary quiz / Unit 3: Homestays ⑥ Unit 3: Host family rules / Vocabulary review ⑦ Unit 3 Vocabulary quiz / Unit 4: Culture shock ⑧ Unit 4: Making adjustments / Vocabulary review ⑨ Unit 4 Vocabulary quiz / Unit 5: Dormitory life ⑩ Unit 5: Suggestions and requests / Vocabulary review ⑪ Unit 5 Vocabulary quiz / Unit 6: Making friends ⑫ Unit 6: Activities overseas / Vocabulary review ⑬ Unit 6 Vocabulary quiz / Unit 9: Ordering food ⑭ Unit 9: Restaurant manners / Vocabulary review ⑮ Unit 9 Vocabulary quiz / Review ⑯ Exam		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	出席状況 30%、少テスト 40%、定期試験 30%		
履修条件	Be interested in speaking English.		
教科書	Communicate Abroad: Essential English for Travel and Study. Simon Cookson & Chihiro Tajima, Cengage. 2016		
参考書			

科目名	英語Ⅳ [国文・食栄・生デ] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国文・食栄・生デ (2年後期)	科目区分	演習
担当者	武藤 美代子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業の目的は、英語Ⅲで培った英語力を活用し、映画とシナリオによる「生の英語」を通して、実用的な語彙や表現および英文法を習得し、英語の3技能の上達を図ることである。 到達目標1.リーディング：シナリオを理解できる（基本的な文法、語彙、表現の習得）。 到達目標2.リスニング：シナリオを読解後、映像を字幕なしで視聴し理解できる。 到達目標3.スピーキング：習得した語彙や表現を用い、場面の説明や自分の意見が言える。		
授業概要	毎授業時、次のアクティビティを行う。 (1) <Words・Phrases>によって、単語や表現の意味と使用法を理解する。 (2) DVDを観る。 (3) <First Viewing >によって、概要を確認する。 (4) <Second Viewing >によって、内容の詳細を確認する。 (5) シナリオの一部をディクテーションする。 時々、会話の一部をペアあるいはグループで暗唱・発表する時間を持ち、スピーキング力の向上をはかる。  【SDGs : ④】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ Review (Unit 1-5) ⑧ Unit 6 ⑨ Unit 7 ⑩ Unit 8 ⑪ Unit 9 ⑫ Unit 10 ⑬ Unit 11 ⑭ Unit 12 ⑮ Review (Unit 6-12) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 次回の授業範囲を予習し、問題の解答をノートに記入しておくこと。 【復習】 授業後に、重要語句や慣用句を覚え、既習の場面の音声を数回聞くこと。		
評価方法	出席・授業参加度20%、対話発表10%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『ミュージック・オブ・ハート』 編著:沖野泰子・南篠健助他 / 出版:英宝社		
参考書	英語辞書必携		

科目名	フランス語Ⅰ French I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Bonjour!と笑顔であいさつできることが一番大切です。SDGsの17の目標に関わるフランスのトピックを紹介していきます。日本と比較しながら、岐阜県についての理解を深める教材で、様々なフランス語単語や表現を覚えていきましょう。在学中にフランス語検定に合格できるように文法を分かりやすく解説します。楽しくフランス語を学びながら日本のゆたかさを考察する機会にもなるような、生きたフランス語を身につけていきましょう。		
授業概要	毎回の授業が、新しい“できる”がふえていくレッスン内容です。フランス語の単語は実は日本の外来語由来にとっても多く、みなさんにとって身近な単語がたくさんあります。日本人は昔からフランスで多くのことを学び、そしてフランスからもたくさんの人々が日本を学ぼうと来日しています。みなさんの表現力が向上する例文を用意して“伝える・伝わる”フランス語をいっしょに身につけていきましょう。練習問題を通して文法力もアップします。Après la pluie, le beau temps. 最初は難しいフランス語も必ずできるようになります。  【SDGs：②,③,⑤,⑧,⑪,⑫,⑬,⑭,⑮,⑰】		
授業計画	① 辞書の使い方、発音、男性形と女性形、形容詞、学習方法のガイダンス ② 動詞の活用と冠詞について ③ 指示形容詞と日常のあいさつ表現 [SDGs：⑤⑧⑰トピック紹介] ④ 前置詞 [SDGs：③⑭⑮トピック紹介] ⑤ 過去形 [SDGs：②⑫⑬トピック紹介] ⑥ フランス語検定試験問題を使って、冠詞・前置詞の復習 ⑦ 自己紹介 数字 1～50 ⑧ 他者紹介 数字 50～100 ⑨ フランス語検定試験問題を使って、動詞の活用の復習 ⑩ 基本的な日常会話練習① ⑪ 岐阜県の郷土料理をフランス語で紹介してみましょう ⑫ 岐阜県の観光地をフランス語で紹介してみましょう ⑬ フランス語検定試験問題5級レベルにトライ（詳しい解説します） ⑭ [SDGs⑰] 大切にしていきたい日本のゆたかさをみんなでフランス語で書いてまとめてみましょう。 ⑮ フランス語Ⅰのまとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	はじめての外国語の辞書を使いますので、辞書に慣れるためにもこまめに調べましょう。教科書には発音をカタカナでふらない様にするため、ノートに本文をうつしておきましょう。毎回予習30分 復習30分 音声練習30分		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「シヴィ・ラング」 Michel Sagaz・中里まき子 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思いますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科目名	フランス語Ⅱ French II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Bonjour ça Va?・・・とフランス語であいさつしたり、笑顔で会話ができる自分をイメージできる授業になるように、みなさんの質問にも間違いに答えていきます。1年目を終わる頃にフランス語検定試験5級・4級にトライできる文法力と表現力を身につけられる内容です。みなさんの日常生活をフランス語で説明できる単語力のために、作文練習もオリジナルで作りました。楽しくハッピーな気持ちではじめてのフランス語学習を進められるように毎回工夫していきます。		
授業概要	現在形、未来形、過去形を全て学ぶことで、表現力は確実にアップしていきます。発音も繰り返し返しの練習でより自然となります。初級文法の仕上げとしてのフランス語作文。初級会話のまとめとしてのおかいもの表現や自己紹介文の習得。On ne fait pas d'omelette sans casser des œufs、“たまごをわらないとオムレツはつくれない”ように、みなさんの勇気のたまごを育てて、おいしいフランス語会話オムレツをいっしょに作っていきたくと思っています。たくさんお話ししていきましょう。  【SDGs：④,⑨】		
授業計画	① フランス語Ⅰの復習 ② フランス語のさまざまな疑問表現と否定表現 [SDGs：⑨トピック紹介] ③ 中性代名詞 [SDGs：④トピック紹介] ④ フランス語の時制① 現在形 ⑤ フランス語の時制② 過去形 ⑥ フランス語の時制③ 未来形 ⑦ フランス語検定試験問題を使って、時制の復習 ⑧ フランス語検定試験問題を使って、形容詞、副詞の復習 ⑨ 比較級、最上級 ⑩ フランス語を使ったゲームを作って遊びましょう ⑪ 日記をフランス語で書いてみましょう ⑫ 条件法、受動態、ジェロンディフ ⑬ フランス語検定試験問題4級レベルにトライ + 詳しい解説 ⑭ [SDGs⑨] 岐阜県の産業、文化、伝統をフランス語で紹介してみましょう ⑮ フランス語Ⅱのまとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	フランス語に少し慣れてきた頃です。なので辞書をさらに活用して熟語を覚えていきましょう。予習15分 単語・熟語暗記15分 復習20分 音声確認15分 音読15分		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「シヴィ・ラング」 Michel Sagaz・中里まき子 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思いますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科目名	フランス語Ⅲ French III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Bonjour！と笑顔で言えることが一番大切だと思っています。フランス語文法を学び「話す」「聞く」「書く」のスキルを身につけていける授業です。思いは言葉となり形になります。ゆたかなコミュニケーションの力が自然についていくようにSDGsの目標をもとにしたトピックスの紹介や、岐阜県の魅力を再認識する内容をフランス語で表現する練習もします。フランス語の文法は実際のフランス語検定試験問題を使って復習して検定試験合格も目標とします。		
授業概要	On n'a qu'une vie. 人生は一度きりというフランス語のことわざです。フランス語を学ぶことで、みなさんにはフランス語で物事を考える思考の窓が作られます。自然に身につけていくような例文でわかりやすく会話表現を学んでいきます。教科書以外の教材を工夫してみなさんが楽しく学べるように工夫していきます。フランス語で歌っているみんなが知っている曲も聞いて時々はいっしょに歌ってみましょう。フランス語が大好きになってフランスに興味を持ってもらって、そして日本の良さをさらに理解できる外国語授業にします。  【SDGs：⑥, ⑦, ⑬】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フランス語Ⅱの復習</li> <li>② Dossier 1</li> <li>③ 冠詞、形容詞、代名詞の復習</li> <li>④ Dossier 2</li> <li>⑤ 動詞の復習、過去形の使い方</li> <li>⑥ [SDGs⑥⑦⑬] フランスの暮らし方を日本と比較して、感想をフランス語で言ってみよう</li> <li>⑦ Dossier 3</li> <li>⑧ 天気の状態、手紙の表現</li> <li>⑨ 時間の表現、未来形の復習</li> <li>⑩ 日記を書いてみよう</li> <li>⑪ Dossier 4</li> <li>⑫ 強調構文、未来日記を書いてみましょう</li> <li>⑬ フランス語検定試験問題4級レベルと3級レベルにトライ + 詳しい解説</li> <li>⑭ みなさんのふるさとをフランス語で紹介してみましょう</li> <li>⑮ フランス語Ⅲのまとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	フランス語の2年目なので、秋のフランス語検定試験を無理なく受けられるように例文を覚えたり活用を練習して、応用力をつけるための 復習30分。音読30分。検定試験問題25分。フランス語で日記5分。		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「オン・デマール」 古賀健太郎 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思いますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科目名	フランス語Ⅳ French IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	いよいよ2年間のしめくくりの後期です。フランス文化・伝統を理解しながら日本のゆたかさもあらためて学ぶことで、日仏両方のすばらしさを知る2年間になったと思います。言葉の力は、ひとりひとりの可能性をさらに引き出していくことです。学際的視野に立ち、あたたかなコミュニケーション力を身につける目的に到達しましょう。ますます多様性が求められる社会になります。確実な外国語能力はみなさんの一生の財産となります。検定試験にもチャレンジしてみましょう。		
授業概要	フランス語特有のリズム感。英語とは異なる文法。初級から中級、中級から上級への準備となる「話す」「聞く」「書く力」が身につけていきます。笑顔でフランス語を話している自分をイメージできる授業にします。実際に伝わるフランス語を学び、みなさんひとりひとりに自信を持っていただきたいです。SDGsの目標の中から大切なことを選び、自分の暮らしに生かしていけるきっかけになったら幸いです。フランス語を大好きになってもらえる授業にしていきます。  【SDGs：⑨, ⑪, ⑭, ⑮】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フランス語Ⅲの復習</li> <li>② Dossier 5</li> <li>③ 命令形</li> <li>④ 現在形の復習</li> <li>⑤ Dossier 6</li> <li>⑥ 時を表す表現、食文化を表す表現</li> <li>⑦ 目的代名詞・中性代名詞の復習 代名動詞 前置詞の復習</li> <li>⑧ Dossier 7</li> <li>⑨ 過去形、未来形、受動態の復習</li> <li>⑩ 岐阜県をフランス人に説明するパンフレットをフランス語でつくろう [SDGs⑨⑪⑭⑮]</li> <li>⑪ フランス語検定試験問題4級レベルと3級レベルにトライ + 詳しい解説</li> <li>⑫ Dossier 8</li> <li>⑬ 小学生のためのミニフランス語教科書を使ってみましょう</li> <li>⑭ 10年後の自分にフランス語で手紙を書いてみましょう</li> <li>⑮ フランス語Ⅳのまとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	いよいよ2年間の仕上げの時期です。日常会話や単語を覚えて実際に使っていけるように音声確認30分。音読25分。検定試験問題35分。		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「オン・デマール」 古賀健太郎 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思いますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科目名	教養演習 [英文] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	英語英文学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>教養演習では、英語英文学科で学ぶ学問分野についての基本的な知識を得ることを目的とする。本演習を通じて、英語学、英語教育学、英米文学などの学問分野が何を対象にして、どんなことを明らかにしていくものなのかを理解し、自らの専門分野を考える契機とする。各専門分野についての入門講義を通じて、研究の方法や論文作成の作法など、大学で学ぶための基礎教養を身につけていく。また、学外研修として岐阜市内の史跡、文化施設、町並み等の見学を実施し、2年間通して学ぶ地である岐阜市について知ることも目標とする。</p>		
授業概要	<p>各授業では担当教員がそれぞれの専門分野、英語学習法についての入門講義を行う。受講者はそれぞれの教員の講義を受け、提示された課題を授業内外で行うことが求められる。また、6月上旬に実施予定の岐阜市内見学についての計画、オリエンテーションを数回行う。これらの学びと活動を通じて、物事を調べる力、記録する力、伝える力など、短期大学の学生としての学びに必要な事柄を身につけていく。</p> <p>【SDGs：④】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 達人の英語学習法（1）</li> <li>② 達人の英語学習法（2）</li> <li>③ 図書館ガイダンス</li> <li>④ 英語の語法と文法</li> <li>⑤ 辞書と文法書の活用</li> <li>⑥ 学外研修 事前調査</li> <li>⑦ 学外研修 レポート作成指導</li> <li>⑧ 学外研修 岐阜市内見学</li> <li>⑨ 学外研修 レポート作成</li> <li>⑩ 学外研修 レポート作成・提出</li> <li>⑪ ことばの科学（1）</li> <li>⑫ ことばの科学（2）</li> <li>⑬ Independent English Study</li> <li>⑭ Group Presentaion</li> <li>⑮ イギリス文学研究入門（1）</li> <li>⑯ イギリス文学研究入門（2）</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】各回の授業で指示する。 【復習】各回の授業で指示する。</p>		
評価方法	各担当教員の評価（20%）の合計点（100点満点）によって成績をつける。		
履修条件	なし。		
教科書	各教員が資料を配布する。		
参考書	各回の授業で随時提示する。		

科目名	教養演習 [国文] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年全期）	科目区分	演習
担当者	国際文化学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>10人程度のゼミ形式で、文章言語表現・レポート作成・文献検索・口頭発表の仕方など、学習活動に不可欠な基本訓練を行なう。さらに、今後の就職活動の準備の仕方などについても、指導を行なう。到達の目標としては、大学で学ぶうえでの基本的な教養と心構えを身につけていることである。</p>		
授業概要	<p>ゼミ形式で、大学で学習するうえでの基本的な教養（文章の読解・要約力、文献検索の仕方、レポート・論文の作成方法、発表・プレゼンテーションの仕方、就職活動の仕方など）を学ぶ。各担当教員は、授業だけでなく、受け持つ学生のアドバイザーとなり、2年間を通して、勉学、生活、就職上の相談に応じる。また、各担当教員が設定した各オフィスアワーには、優先的に相談に応じる。</p> <p>【SDGs：⑰】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 大学及び大学生とは（1）</li> <li>② 大学及び大学生とは（2）</li> <li>③ 大学の施設を有効利用する</li> <li>④ 文章の読解力、要約力を磨く（1）</li> <li>⑤ 文章の読解力、要約力を磨く（2）</li> <li>⑥ 文献検索、情報検索の方法を身につける（1）</li> <li>⑦ 文献検索、情報検索の方法を身につける（2）</li> <li>⑧ レポート・論文を作成する（1）</li> <li>⑨ レポート・論文を作成する（2）</li> <li>⑩ レポート・論文を作成する（3）</li> <li>⑪ レポート・論文を発表する（1）</li> <li>⑫ レポート・論文を発表する（2）</li> <li>⑬ 情報の伝達力を磨く（1）</li> <li>⑭ 情報の伝達力を磨く（2）</li> <li>⑮ 職業に向けての心構え（1）</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】予習に内容については各担当教員が授業のなかで提示する。 【復習】毎回各担当教員が提示する内容について復習すること。</p>		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし		
教科書	各担当教員が授業のなかで提示する。		
参考書	各担当教員が授業のなかで提示する。		

科目名	教養演習 [食栄] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	食物栄養学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>教養演習を通して、大学における学びの技法を修得する。また、少人数のグループ学習の中で、将来、栄養士を目指して、「大学で何を学ぶべきか?」「社会でどのように役立ちたいか?」、「そのための必要な学び・スキルとは何か?」について、自ら考え、目標が立てられるようになる。すなわち、高校生までの受け身の学修姿勢から自発的な学修姿勢へと変換する。□</p>		
授業概要	<p>大学生として身につけるべき基礎的技能を習得する。具体的には、ノートの取り方、講義の受け方、情報収集(文献・資料の検索方法)、スライドを使ったプレゼンテーションの基礎、レポートの作成方法などを10名程度のグループ学習の中で学ぶ。また、グループワークの中で、コミュニケーション能力や総合的な判断力の養成を行う。食物栄養学科では、特に「食」を学ぶ意義や「食」に係わる者の倫理に重点を置いた取り上げ方をとする。</p> <p>【SDGs : ③, ④】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 学生の学習技術：ノートの取り方、講義の受け方</li> <li>③ 学生の学習技術：予習・復習、図書館の使い方</li> <li>④ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(1)</li> <li>⑤ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(2)</li> <li>⑥ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(3)</li> <li>⑦ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(4)</li> <li>⑧ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(5)</li> <li>⑨ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(6)</li> <li>⑩ 演習Ⅰ：口頭発表</li> <li>⑪ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(1)</li> <li>⑫ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(2)</li> <li>⑬ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(3)</li> <li>⑭ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(4)</li> <li>⑮ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(5)</li> <li>⑯ レポート・論文提出</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】配布資料がある場合、再読し、理解する。</p>		
評価方法	出席状況25%、授業態度25%、発表25%、レポート・論文など提出物25%		
履修条件	なし。		
教科書	『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』／著：西川真理子／出版：化学同人		
参考書	各担当教員がテーマに応じて適宜紹介する。		

科目名	教養演習 [生デ] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>大学での学習・生活は、高校までのそれとは大きく異なる。勉学は自発的にするものであり、生活面では権利と義務が伴う。本講義では、大学生活の出だしを自信とやる気を持ってスムーズに進められるよう、大学生としての基本姿勢・自ら学ぶ学習技術を会得することを目的とする。まず大学とは何かを理解するとともに本学の設立趣旨・本学科の教育目標と本学施設の活用方法を学ぶ。次いで、大学生の学習技術として、ノートをとる力・読む力・調べる力・まとめる力・伝える力などを習得することを目標とする。</p>		
授業概要	<p>テキストに添って、「講義ノートをとる力」、「テキストを読む力」、「文献を調べる力」、「レポートを書く力」、「レポートをまとめる力」の順に進めていく。大学の講義においては、レポート課題が多く出されることから、「レポートを書く力」を習得することが特に重要となる。また、その事前の準備として文献調査が必ず必要となり、図書館の利用方法も理解し十分に活用してもらいたい。なお、各講義においては、パワーポイントを用いて、簡潔に理解できるよう工夫している。</p> <p>【SDGs : ④】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 大学とは何か・本学の設立趣旨と本学科の教育目標</li> <li>② 講義ノートをとる力の習得</li> <li>③ テキストを読む力の習得</li> <li>④ 文献を調べる力の習得</li> <li>⑤ レポートを書く力の習得</li> <li>⑥ レポートをまとめる力の習得</li> <li>⑦ 成果を伝える力の習得</li> <li>⑧ 学外研修</li> <li>⑨ 学外研修</li> <li>⑩ 学外研修</li> <li>⑪ 学外研修</li> <li>⑫ 特別講義 (1回目)</li> <li>⑬ 特別講義 (2回目)</li> <li>⑭ 卒業研究中間発表会</li> <li>⑮ 卒業研究中間発表会</li> <li>⑯</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】教科書をあらかじめ見ておくこと。 【復習】学んだことを他の講義等で実行すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%		
履修条件	学外研修参加(レポート提出)、特別講義参加、卒業研究中間発表会参加		
教科書	くろしお出版 学習技術研究会編著 「知へのステップ 第5版」		
参考書	なし		